

Fujitsu Way

Fujitsu Way の刷新

富士通グループは、全社員の行動の原理原則として「The FUJITSU Way」を2002年に制定しました。その後、社会や事業を取り巻く環境の変化に合わせ、2008年に改訂するとともに「FUJITSU Way」へと名称を変更し、社員へのさらなる浸透を図ってきました。

昨今、世界はより複雑に結びつき、急速に変化する不確実な時代を迎えており、地球規模の持続可能性に関する様々な脅威が顕在化してきています。そのような中、当社グループはテクノロジーを通じてお客様に価値を提供し、社会の変革に主体的に貢献していくため、「イノベーションによって社会に信頼をもたらし、世界をより持続可能にしていくこと」を当社グループの「パーパス」と定め、その実現に向け、2020年7月1日に、12年ぶりに「Fujitsu Way」を刷新しました。

刷新した「Fujitsu Way」は、「パーパス」「大切にする価値観」「行動規範」の3つから構成されます。それぞれが表すものは以下のとおりです。さらに、「大切にする価値観」は「パーパス」を実現していくために当社が実行すべき「挑戦」「信頼」「共感」の3つの行動の循環を示しています。

- 「パーパス」 社会における当社の存在意義
- 「大切にする価値観」 社員一人ひとりが持つべき価値観
- 「行動規範」 社員として遵守すべきこと

当社グループは、新たな「Fujitsu Way」を社員一人ひとりの行動の拠り所として企業活動を推進し、「パーパス」の実現を目指していきます。詳細は以下のサイトをご覧ください。

- > [Fujitsu Way について](#)
- > [企業カルチャーの変革](#)



パーパス	わたしたちのパーパスは、イノベーションによって社会に信頼をもたらし、世界をより持続可能にしていくことです
挑戦	- 志高くターゲットを設定し、スピード感をもって取り組みます - 多様性を受け入れ、斬新なアイデアを生み出します - 好奇心を持ち、失敗や経験から学びます - ヒューマンセントリックなイノベーションにより、より良いインパクトをもたらします
大切にする価値観	- 約束を守り、期待を超える成果を出します - 倫理感と透明性を持って誠実に行動します - 自律的に働き、共通のゴールに向けて協力します - テクノロジーを活用し、信頼ある社会づくりに貢献します
共感	- お客様の成功と持続的な成長を追求します - すべての人々に目を向け、地球のことを考えて行動します - グローバルな課題を解決するために協働します - 社員、お客様、パートナー、コミュニティ、株主に共通価値を創造します
行動規範	- 人権を尊重します - 公正な商取引を行います - 機密を保持します - 法令を遵守します - 知的財産を守り尊重します - 業務上の立場を私的に利用しません

Fujitsu Way の構成

企業カルチャーの変革

Fujitsu Way

富士通は、2020年7月、社会における富士通の存在意義「パーパス」を軸とした全社員の原理原則である「Fujitsu Way」を掲げています。すべての富士通社員が、パーパスの実現を目指して、挑戦・信頼・共感からなる「大切にする価値観」「行動規範」をもって日々活動し、富士通の価値をお客様や社会に届けていきます。

- > [Fujitsu Way](#)
- > [Our Story](#)



Our Purpose

Fujitsu Way 推進に向けた取り組み 社内向けコミュニケーション施策の展開

Fujitsu Way の共感を図るため社内向けコミュニケーション施策を展開しています。

グローバル全体で Fujitsu Way に取り組むべく、ガバナンス体制として現場への Fujitsu Way の浸透を担う Fujitsu Way 推進責任者を任命するとともに、動機づけを図る場として、社長と Fujitsu Way 推進責任者による「Fujitsu Way ミーティング」を定期的を開催しています。

また、富士通社員一人ひとりが Fujitsu Way を理解するため、Fujitsu Way 解説書を作成し、グローバル全社員で共有しました。経営陣が心に描く富士通を変えていきたい思いや、歴代社長等が残した言葉（受け継ぐべきDNA）、そして言葉ひとつひとつに込められた背景を共有することで、Fujitsu Way を自分事として認識できるように展開しています。パーパスの実現に向け、ワークショップや Fujitsu Way に関する解説ビデオ等によるコミュニケーションを通じて、Fujitsu Way の実践に取り組んでいきます。



Fujitsu Way 解説書のイメージ

Purpose Carving®を通じた推進

富士通のパーパスを実現するには、社員一人ひとりの想いを結集させ、より大きな力を生んでいく必要があると考え、2020 年より個人のパーパス（My Purpose）をかたちにする取り組み「Purpose Carving®」を進めています。

対話のプログラムである Purpose Carving®では、その人が歩んできた道のりや大切にしている価値観を振り返り、未来に向けて想いを馳せながら、個人のパーパスを彫り出します。2022 年 7 月現在、グローバル含め 65,000 人の社員が実施し、富士通のパーパスとの重なり合いを変革の原動力としています。

また、日々の業務と My Purpose の重なり合いを振り返るパーパスリフレクションや、My Purpose を起点とした成長および関係性構築の取り組みも初めています。

その一環として、社員が富士通の経営リーダーのパーパスを理解し、変革への想いを聴くライブ番組「フジトラ



フジトラ Radio with Leaders 経営リーダーのグラフィック

Radio with Leaders」を配信しました。経営層 28 名が週替わりで本ラジオに登壇し、のべ 45,000 人が視聴しています。視聴した社員の 9 割が「経営リーダーが身近になった」と回答しました。これらのパーパスの浸透策を通じて、社員一人ひとりが個人のパーパスを掘り出し、個人と会社のパーパスを摺り合わせることによって、個人や組織の行動変容が生まれることを目指しています。

サステナビリティ貢献賞

サステナビリティ貢献賞は、パーパスの実現を推進するために設けた社内表彰です。富士通が考える持続可能な社会を作り上げるためには、組織全体が、パーパスや事業方針を基に、個人や組織が、変革を起こし新しい価値を生み出す必要があります。そこで、サステナビリティ貢献賞では社会へのアウトプットだけでなく、これまでのあり様を大きく変えることを推進するため、組織のカルチャー変革も表彰に加えています。審査では、Fujitsu Way の大切にしている価値観、パーパス・グローバルレスポンシブルビジネス（GRB）の実現を審査基準とし、Fujitsu Way 推進責任者や CSO（注 1）が審査員として参加しています。

2022 年度は、グローバルの富士通グループ各社から 166 件に及ぶ多数の応募がある中、大賞 2 件、優秀賞 7 件が選ばれました。「大賞」受賞案件については以下の通りです。

（注 1） CSO：Chief Sustainability Officer

● 「大賞」受賞案件

“様々なステークホルダーを透明性のあるサプライチェーンソリューションで統合し、社会的課題解決に挑戦”

- ブロックチェーンを活用し、様々な商品のグローバル取引における業界・業種を超えた End to End の信頼性や透明性、トレーサビリティを確保することでグレーな取引を抑止し、生産者の保護、水資源不足の解消、カーボンオフセットの実現など、多くのお客様、ステークホルダーによるサステナビリティな取り組みを支援・実現しています。
- ソリューションの展開事例：持続的な水資源の精製・取引、コメ取引プラットフォーム、食品メーカー、使用済み EV バッテリーのリユース、ファッション業界などにおけるトレーサビリティの確保。

"Global Delivery Responsible Business Program (GRiP)

- 教育を通じた長期的インパクト創出（地域社会での教育ボランティア活動） -"

- GRiP では最も教育を必要としている地域の教育施設を支援し、学生が自分の潜在能力を発揮し成功できる力を与え、デジタル社会の未来に向けた準備ができることを目的に、教育アウトリーチ・プログラムを実施しています。2021年4月から12月にかけて、Global Delivery Centerの全9拠点で80を超える教育プログラムと6799時間にも及ぶボランティア活動を実施し、世界中で7,000人弱に教育支援を行いました。
- 活動例：テクノロジー（ロボット工学、AI、サイバーセキュリティ）に関するインターンシップ、ワークショップ。学生へのキャリアトークやカンファレンスを通じてテクノロジー関連の仕事に対する意識喚起。教育機関へのハードウェアや文房具や資金提供。女性のための専門技術コースと教育アウトリーチを通じたジェンダー平等の促進など。

パーパスの実現を支える知財戦略

方針（3つの視点による知財戦略）

富士通のパーパスは、イノベーションによって社会に信頼をもたらし、世界をより持続可能にすることです。富士通のパーパス実現に向けて「Fujitsu Uvance」では、7つの Key Focus Areas に注力して取り組んでいます。知財部門では、この Key Focus Areas を支える Key Technologies に重点を置いた知財ポートフォリオの構築を行うとともに、3つの視点で知財活動に取り組んでいます。

1. イノベーションの視点で、Key Focus Areas を支える知財戦略
5つの Key Technologies に重点を置いた知財ポートフォリオを構築します。その上で、知財部門の持つ、イノベーションや研究開発の成果を権利化する専門性や、オープンソースソフトウェア（OSS）、知財教育等の現場への知財活動が浸透している強みを基に、イノベーションをもたらすための IP 分析を強化します。
2. 社会に信頼をもたらす知財戦略
商標などのブランドを守るための活動や、技術を安心して社会に受け入れていただくといったスタンダード活動によるルール形成の強化に取り組みます。
3. 持続可能な世界に向けた知財戦略（FUJITSU Technology Licensing Program™ for SDGs）
SDGs 達成に向けた WIPOGREEN の活用や、COVID-19 収束に向けた当社知財の開放、地方創生に向けた知財活用等、社会課題に向き合うような知財活用を行います。

> 富士通の知的財産



富士通のパーパスの実現を支える知財戦略

知財部門の体制

知財部門は、現場部門の知財支援機能を担う「知財フロントサービス統括部」、富士通グループの知財戦略機能とポートフォリオ構築機能を担う「知財グローバルヘッドオフィス」からなります。

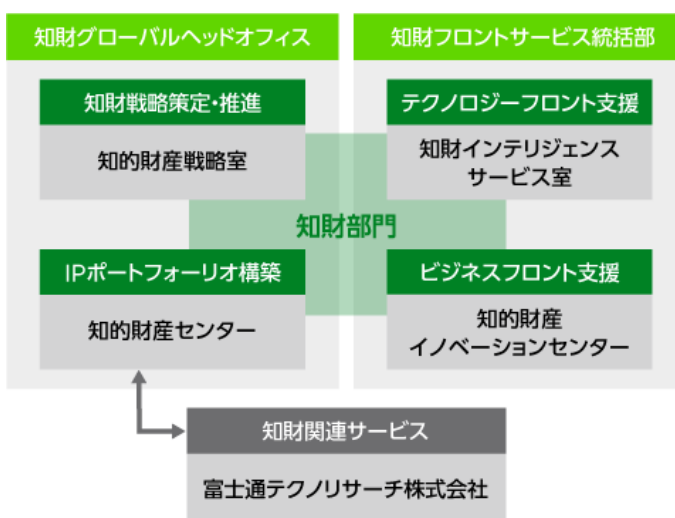
ビジネスプロデューサーや SE を対象に知財活動を推進する「知的財産イノベーションセンター」、ビジネス部門向け知財調査・分析および研究開発を行う研究所を支援する「知財インテリジェンスサービス室」、知財ポートフォリオ構築を実行する「知的財産センター」、そして経営層とのコミュニケーションを踏まえ全社の知財戦略を策定・推進する「知的財産戦略室」、さらに知財関連サービスを提供する「富士通テクノリサーチ（株）」が協働し、知財戦略を実行していきます。

また、富士通では、グループ全体の知財力を最大限に発揮できるような知財ガバナンスの体制を構築しています。

国内では、知財活動を行うグループ会社と一体となった活動を実施しています。一部例外として独立して知財活動を行う会社については、レポートラインを構築し、密に連携した活動を実施しています。

グローバルでは、欧州、中国、オーストラリア、米国の4拠点の知財責任者とレポートラインを構築し、さらに定期的な会合を実施してグローバルビジネスの実態に即した知財活動の実現に向けた活動を行っています。

知財部門の体制



グループ・グローバル連携



取り組み

富士通では、Key Focus Areas を支える Key Technologies に重点を置いた知財ポートフォリオの構築、SDGs 達成を目的とする FUJITSU Technology Licensing Program™ for SDGs を通じたコラボレーションなどの共創に向けた知財活用の取り組みを行っています。また、OSS の活用や、信頼・安心して先進技術を人のため、世界のために活用できるような社会のルール形成に取り組む国際標準化・ルールメイキング、さらに重要な経営資源であるブランドとデザインに関するグローバルでの権利保護活動など、Key Focus Areas をブランド・デザインの観点から戦略的に支える取り組みを行っています。

特に知財ポートフォリオの構築において重点を置いている Key Technologies に関するオープンイノベーションの事例、社会課題解決に向けた知財活動、共創に向けた知財活用に関するオープンイノベーションの事例をご紹介します。

オープンイノベーション事例

コンピューティング：デジタルアニーラ（メルコインベストメンツ（株）との共創）

<株式ポートフォリオにおける最適化計算の実現>

富士通は、組合せ最適化問題を高速に解く仕組みとして、量子現象に着想を得て「デジタルアニーラ」を開発し、そのコア技術を中心に数多くの特許出願を行っています。特許に裏付けられた差異化技術をもとに、お客様とのトライアル、共創を行っており、メルコインベストメンツ（株）が運用する株式投資の分野においては、「デジタルアニーラ」を活用することで、リスクの少ない株式ポートフォリオの生成に成功しました。これをもとに、メルコインベストメンツ（株）では、2022年1月より金融資産の実運用業務の一部で「デジタルアニーラ」の活用を開始しました。

数百の株式銘柄について、組合せ最適化計算で最適な株式ポートフォリオを求めるには、従来のコンピューティングでは膨大な計算量と時間がかかり事実上不可能であったところ、今回、富士通の「デジタルアニーラ」を活用することで、数百銘柄の組合せ最適化計算が10分程度でできるようになり、より精度の高い計算に基づいた分析結果を、実際の資産運用業務に活用することが可能になりました。

- > [金融資産の運用に量子現象に着想を得た次世代アーキテクチャー「デジタルアニーラ」を活用](#)
- > [メルコインベストメンツ株式会社様／デジタルアニーラとともに挑戦する金融サービスのフロンティア](#)

ネットワーク：IOWN（NTT との戦略的業務提携）

<次世代「6G」の実現に向けた共同研究開発の推進>

NTT（日本電信電話（株））と富士通は、2021年4月「持続可能な未来型デジタル社会の実現」を目的とした戦略的業務提携に合意しました。この提携を通じて創出されるイノベーションにより、IOWN 構想に賛同する幅広いパートナーとグローバルかつオープンに連携し、低エネルギーで高効率な新しいデジタル社会の実現を目的としています。

本業務提携では、両社が有する世界有数の特許数を誇る光技術をはじめとした通信技術や運用ノウハウと富士通が有する世界一のコンピューティング技術などを背景に、両社の強みが活かせる分野において共同研究を進め、その成果を活用したグローバルなオープンイノベーションを通じて、低エネルギーで高効率、かつ持続可能なデジタル社会を実現することで、両社で共有するビジョンの具現化を目指します。

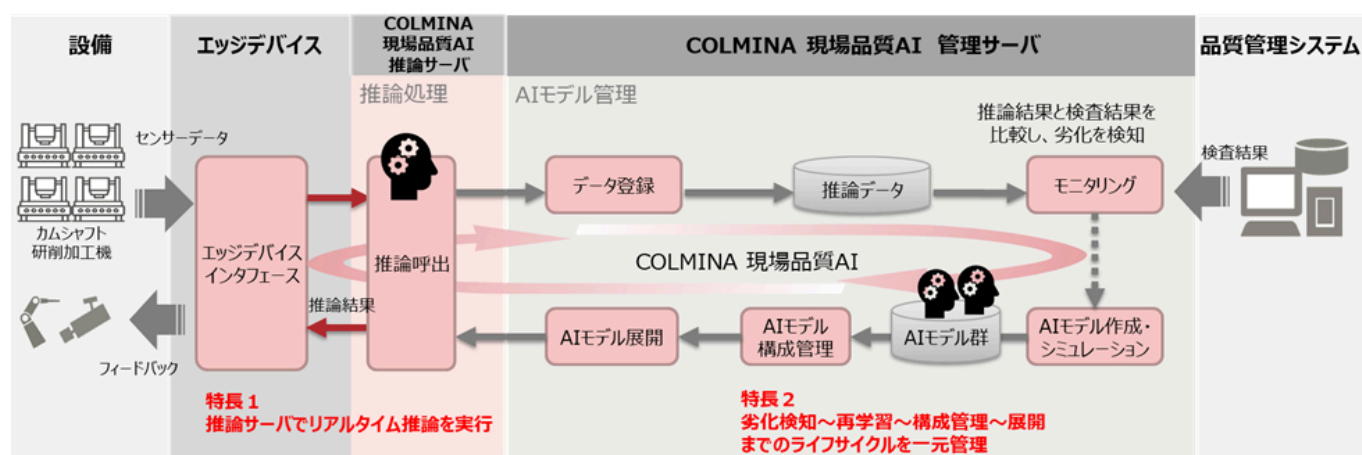
- > [NTT と富士通、「持続可能な未来型デジタル社会の実現」に向けた戦略的業務提携に合意](#)

AI：（株）SUBARU との共同開発

<AI モデルによる製造現場の品質保証の実現>

（株）SUBARU と富士通は、高精度 AI モデルでエンジン部品研削加工工程での品質保証を実現するため、2019 年以降、実証実験、開発・実証を通じて共創を行ってきました。その中で、エンジン部品の品質検査自動化、予測を実現する業界初の AI 関連発明を創作・実用化し、特許の共同出願を行っています。さらに、両社は量産運用を想定し、本 AI モデルの管理支援を行う「FUJITSU Manufacturing Industry Solution COLMINA 現場品質 AI 運用管理パッケージ」の開発・実証を実施し、2022 年 2 月に本格稼働に至りました。その結果、エンジン部品研削加工時の品質保証を高精度かつリアルタイムに実現したほか、効率的な AI モデルの運用や、AI モデルの品質を継続的に維持した運用を実現しました。併せて、大泉工場をはじめとした SUBARU の群馬製作所全体でのリアルタイムデータを活用した品質保証レベル向上に向けた AI 活用基盤を確立しました。

> 高精度 AI モデルでエンジン部品研削加工工程の品質保証を実現 SUBARU の量産ラインで本格稼働開始



システムイメージ

社会課題解決：音をからだで感じるユーザインタフェース Ontenna

<社会課題解決を支える知財ミックス戦略>

Ontenna（オンテナ）は、髪の毛や耳たぶ、えり元やそで口などに身に付け、振動と光によって音の特徴をからだで感じる全く新しいユーザインタフェースです。ろう者と健聴者が共に楽しむ未来を目指し、ろう者と協働で開発しました。

Ontenna は装着時の違和感をなくすため、丸みのある優しいフォルムでヘアピンように装着できる形状となっています。本体部分、充電器、複数の Ontenna を制御することができるコントローラの意匠出願および意匠登録を行い、さらに本体部分の形状は立体商標でも権利化を行っています。また、Ontenna の充電方法や通信システムは特許出願、特許登録もっており、本体部分および周辺機器を知財ミックス戦略で保護しています。

また、Ontenna は令和 4 年度全国発明表彰恩賜発明賞を受賞しました。2019 年度の GOOD DESIGN 賞の金賞、IAUD 国際デザイン賞大賞、地方発明表彰特許庁長官賞などを受賞し、社外からも高い評価を得ています。



Ontenna の装着イメージ

- > 知財ミックス戦略での権利保護活動／音をからだで感じ、まわりの人と音と一緒に楽しむ「Ontenna」
- > Ontenna《オンテナ》
- > 音を振動や光で知覚する身体装着装置の意匠が「恩賜発明賞」を受賞

共創：FUJITSU Technology Licensing Program™ for SDGs（Haloworld 様）

<共創による 3D Scanner「BeTHERE」の開発>

富士通は、イノベーションにより持続可能な世界を実現するため、SDGs 達成に貢献する特許やノウハウなどの知的財産を企業・学術機関に活用いただく取り組み「FUJITSU Technology Licensing Program™ for SDGs」を推進しています。国や自治体、金融機関、大学における知的財産マッチング活動や、環境関連技術の技術移転の枠組み「WIPO GREEN」を通じたコラボレーションにより、富士通の技術を広く社会に普及させることで、COVID-19 収束・環境保全・地方創生などに貢献していきます。

知的財産マッチングの事例としては、2019 年に富士通からの特許技術の紹介とプロトタイプの実験をきっかけに、Haloworld 様に特許のライセンスを行い、製品化が進められた、3D Scanner「BeTHERE」があります。

「BeTHERE」は、現場で周囲 360 度を撮影し、その場で撮影データを確認できる 3D スキャナで、距離のわかる 3D 点群データに撮影画像のテクスチャマッピングを行えます。異なる場所で撮影した 3D 点群データの統合（位置合わせ）技術について富士通から実施許諾し、さらにユーザインタフェースの改善により操作性を向上したほか、防塵・防滴対応など量産化に向けた改善が行われました。また、対象物までの距離を測定する LiDAR（Light Detection and Ranging）センサも最新のものを適用し、測定精度を高められています。

> [Haloworld 株式会社 様／3D Scanner「BeTHERE」の開発](#)

BeTHERE（ビーゼア）

※「Like Being There（そこにいるような）」

3D点群計測ユニット



コンパクトで軽量・簡単設置
WiFiによる遠隔操作
計測データ送信機能付き



3D計測時間30sec
複数データを簡単統合
ビジュアル3Dモデル化

2D-LiDARを180° 旋回



全方位で3D計測
測距半径max60m
最大277満点／計測

[3D Scanner「BeTHERE」]